

千葉県支部

「地域特産品とその流通の現状」調査研究

千葉県の食品産業は農業において全国２位にあり、水産業においても水揚げ量で全国トップクラスであるが、これに関連する加工業者、流通業者は脆弱である。

東京という大消費地に近く、生鮮品素材として引き取られる割合が高く、食品工業の立ち遅れの一因となったと思われる。

消費地としては、千葉市、市川市と船橋市、松戸市と柏市の周辺の都市地域で約 400 万人の人口を抱えている。

生産地と消費地の交流を、人の移動と地域食品の移動の主要な手段として道路と鉄道と考え、移動手段にあわせ調査地域を次のように設定した。

(１) 房総半島中央地域、(２) 成田周辺地域、(３) 北総地域、(４) 東総、九十九里地域、(５) 房総半島東部 (太平洋岸) 地域、(６) 房総半島西部 (東京湾岸) 地域
地域特産品の調査にあたり、調査対象とした特産品は生産地に限定した。

ここでの地域特産品としては、生産量は比較的少量で通年生産していない、ブランドはまだ確立されていない、消費地にまではＰＲされていない、販売ルートは脆弱である、消費地のニーズに合致している、等が特長として挙げられる。

一方、地域特産品はその地域特有のハードグッズ (有形財) だけでなく、間接的にハードグッズの消費を伴う、あるいは、生産地での時間消費や生産地特有の体験をするハーフグッズ、ソフトグッズ (無形財) を加えることとした。

調査の方法は原則として可能な限りメンバー全員で現地調査をし、地域のキーマンにインタビューすることによって、資料を収集した。現地調査には時間的制約が多く、パンフレット、地域企業のＨＰから資料を収集補足し、内容を消化して報告書にまとめた。

通常アンケート調査を行い、その結果を踏まえて現地調査を行うが、今回調査対象が把握しにくいことを理由にアンケート調査は行わなかった。

調査の結果、千葉県内の農・林・漁村地域には、名所・旧跡、名産品・特産品が数多く存在する。まだまだ歴史、文化、風習等の地域特性の違いにより、埋もれた名産品・特産品があり、それをいかに人口 400 万人といわれる、千葉・船橋・東葛地域の都市地域に発掘・開発し、供給するか等今後の課題は多い。

千葉県は現在「千 (地) 産千 (地) 消」活動を展開中であり、農・林・漁村の地域産品を、まずは地域ごとに評価し、次に県内都市地域で消費し、最終的に全国へ供給する流通経路を確立したい。

県内都市地域には団塊の世代をはじめ多くの地方出身者が居住する。まずは「ふるさと回帰」を千葉県内の農・林・漁村地域で体験することで、地域交流・活性化の推進を望みたい。